

平成 30 年度 第 2 回総合教育会議 要旨

日時：平成 30 年 6 月 27 日(水) 午後 3 時～4 時 40 分

場所：市役所 5 階 大会議室

出席者：

構成員 仲田市長、西本教育長、井口委員、石井委員、浦崎委員、大北委員
事務局 山本総合政策部長、石田教育総務部長、奥村教育振興部長、降松企画政策課長、五百蔵教育総務課長、生田学校教育課長、清水企画政策課主幹、坂田学校教育課副課長（企画政策課副課長）、鍋島学校教育課副課長、能出教育総務課政策係長、岡島企画政策課主事、企画政策課竹谷

傍聴人の数：7 名

1 開会、あいさつ

(仲田市長)

5 月 7 日に続き、本年度第 2 回目の総合教育会議である。前回の総合教育会議では、学校再編を検討するに当たっては、子どもを中心に考えていくことと集団教育の必要性について、委員の皆様と認識を共有した。

よって、当初は中学校のみの再編ということであったが、小学校をも含めて、市全体で考える必要があるという結論に至った。

そして、生徒数の少ない志染・星陽・吉川中学校区の小中学校については、早急に対応していかなければならない。

また、学校の統廃合では、やはり「地域」が非常に重要なキーワードになるため、保護者や地域の方々の意見を十分に聞いた上、判断しなければならない。

これらを前提に、本日は、学校再編に向けての新たな議論を進めたい。

2 議事

(鍋島学校教育課副課長)

資料に基づき事務局説明

- ・資料 1 学校を再編する手法（学校選択制と学校統合）
学校を再編する手法（小中一貫校と義務教育学校の違いや特色）
- ・資料 2 三木市の学校再編（全体案）

(仲田市長)

施設一体型とは、小・中学校が同じ敷地内にある小中一貫校ということか。

(鍋島学校教育課副課長)

同じ敷地内にあるものを想定している。

(浦崎委員)

地域の意見を聞くという点について、どのような方法を考えているか。以前に、志染、口吉川、細川についてはアンケートを実施している。今回はどのような方法で意見の集約を行うのか。

(鍋島学校教育課副課長)

本日の総合教育会議の方向性を受け、有識者会議である学校再編検討会議を開催して協議を行う。また、中学校区ごとに地域部会を設置し、保護者、地域の方々、学校関係者が構成員となり、さまざまな角度から意見を出し合っていたきその意見を検討会議に上げていただく予定である。

(浦崎委員)

志染・星陽中校区には、既に説明を行ったのか。

(生田学校教育課長)

一定の説明はアンケート時に行なっているが、今後設置する地域部会の中で、地域の意見をしっかりと聞きたいと考えている。

(石井委員)

視察に行った義務教育学校では、1年生から9年生までが一体型の施設で過ごすことで、リーダーシップを発揮する機会が増え、例えば、9年生が低学年の生徒に付き添って登校する姿が見られるということである。地域や放課後の友だち同士の遊びが希薄になっている現代では、子どもたちが、やがて社会に出るに当たって、縦のつながりにおいて学校の果たす役割が非常に大きいと感じており、義務教育学校という制度自体に非常に魅力を感じている。

(仲田市長)

確かに義務教育学校では、9年生までが同じ学校ということで、年長者であるという意識を持つ生徒も増えるであろう。

(井口委員)

私も常々、小中一貫教育を提唱している。兄弟が少ない生徒でも、学校で年

長者になれば、意識も持てる。そのことが大切だと思う。義務教育学校を推したい。ひとつ聞くが、義務教育学校の制度で前期課程と後期課程となっているが、「4・3・2年制」に関してはどう考えているのか。

(鍋島学校教育課副課長)

義務教育学校の中には、「6・3年制」という基本的な形を維持しつつ、「4・3・2年制」で様々な行事や取組をしているところがある。

具体的には、4年生、7年生、9年生など、リーダーとなるそれぞれの学年が、活躍する機会を得ることができる。

また、中学校2年生に当たる8年生については、いわゆる中学校に慣れてくる年代であって、進路を考えるには少し早いという時期であり、心身が発達する時期であるため、少し不安定な学年であると言われている。

しかし、8年生の生徒が多くの下級生と関わり、リーダーシップを発揮することで、目的意識や自尊感情が芽生えて、優しくなるという話を先進校の校長から聞いた。

(生田学校教育課長)

地域や学校の特性があるので、委員が言われた「4・3・2年制」以外のくり方も考えられる。それを学校長の判断で決められるという自由度がある。

(仲田市長)

確認するが、義務教育学校では、「6・3年制」もあれば「4・3・2年制」もあり、校長が選択できるということか。

(鍋島学校教育課副課長)

教育課程については「6・3年制」が基本である。しかし、学校行事等を「4・3・2年制」で行うこともできるということである。

(西本教育長)

教育カリキュラムについては、小学校6年間と中学校3年間のカリキュラムを行う。学校行事等の教育活動の中で「4・3・2年制」にすることで、例えば4年生が最高学年となって下級生の世話をし、また、次の3学年の中では、中学1年生が、小学校6年生及び5年生を見ることで意識が変わるという制度であり、義務教育本来の教育カリキュラムと「4・3・2年制」の教育活動は、別に考えなければならない。

(大北委員)

小学校教育課程と中学校教育課程は、法律で定められている。教科書を入れ替えたり、学ぶことを入れ替えたりすることはできない。しかし、その他の社会性を培うことなど、多くの学びの中で、「4・3・2年制」も良いし、地域性やめざす子ども像の違いにより、それ以外のくくり方であっても良い。その自由度が義務教育学校の良さであると思う。一方、小中一貫校では、そのようなことは難しい。義務教育学校が、最終的な理想の形と捉えていいのではないかと思うが、どのような条件が揃えば、小中一貫校から義務教育学校へ移行することができるのかという点について、説明願いたい。

(鍋島学校教育課副課長)

教員免許の問題である。現在、教職員免許法では、義務教育学校については、小・中学校両方の免許を持つ者でなければ教員を務めることができない。ただし、当分の間は、どちらか一方の免許保持者でも良いと法律で定められている。

(仲田市長)

義務教育学校へ移行するための条件が整う時期はいつか。

(鍋島学校教育課副課長)

詳しい時期は決まっていない。

教員確保の問題があるため、全ての学校ですぐに義務教育学校化というわけにはいかない。

現在、市内の小学校教員のうち、中学校の教員免許を保持している者の割合は約57%、中学校の教員で小学校の教員免許を保持している者の割合は約22%である。

また、学校の規模があまりに大きい学校になると、せっかくの利点である縦の連携が取れず、横の連携だけで手一杯になる。そのため、適正な規模になってから義務教育学校化するべきである。

(大北委員)

小中両方の教員免許保持者の年代の割合なども調査すれば、予測も立てやすくなるのではないか。いつまでに実現できるか見えていないという点については、不安を感じる。

(西本教育長)

先ほど事務局から4つの小規模校解消の手法について説明があった。やはり、

学校選択制は不安定な部分があるので、デメリットが大きいと感じている。小規模校を解消する手法として、まずは統廃合によって一定の規模を確保する。そして、めざすべき義務教育学校へ移行するにしても、子どもたちや教員が小中一貫教育に順応するための助走期間も必要であると感じる。

現段階で明確な計画を立てることができなくとも、我々が最終的な着地点を示すことにより、そこへ向かって統廃合、小中一貫という過程の中で、子どもたちにとって望ましい学校づくりができるのではないかと考える。

人口推計から言っても、30年後には現在の児童・生徒数が半減するということなので、20年、30年先を見通した上での全体像であるべきだと思う。

(大北委員)

確かに、視察先のように一足飛びに義務教育学校に移行するより、段階を踏んだ上の方が、着地も上手にできるのではないかとも思う。

(西本教育長)

視察の件について、和歌山の義務教育学校を1校と、大阪の小中一貫校を1校、学校の規模としては、9学年で600～700人程度の学校を視察した。

和歌山の義務教育学校については、まずは小中一貫校をめざしていたが、途中で義務教育学校に切り替えて、一足飛びに義務教育学校を設置したというケースである。

三木市においても、一足飛びに義務教育学校に移行することも不可能ではないが、状況を見て判断するべきであると考ええる。

(仲田市長)

最終的な着地点としては、義務教育学校をめざすということによいか。

教員の免許の問題や学校数によって校長の数も変わってくるが、これについては別の議論とする。

これから人口が減ってくることを踏まえた上で、各学年2学級以上を確保することを考えると、最終着地点である9年制の義務教育学校を、現在の市内小学校16校、中学校8校について、何校区に再編すべきと考えているか。

(鍋島学校教育課副課長)

現在の8中学校区を小中一貫校、義務教育学校に再編する場合、5校区程度が妥当であると考えている。

(仲田市長)

その根拠は。

(鍋島学校教育課副課長)

2045年には、5歳から14歳までの10学年で約3,000人になると推計されている。つまり、全市で1学年300人程度になる。それを5つの学校区で再編すると、計算上では、1校の1学年当たり60人となり、1学年2学級を確保できる。このことから5学校区が妥当ではないかと考える。

(仲田市長)

5校区に分けることの是非については、後ほどの有識者会議でも議論があるかと思う。

この場では、人口推計を見て、どの組み合わせで再編するかは別として、5校区で再編することを素案とするということでこの議論を終了してよいか。

まとめると、学校選択制は、毎年の子どもの数が分からないというデメリットが大きい。学校統合についても、仮に志染中学校と星陽中学校を統合しても、また次の統合を考えなければならず、長期的にはメリットよりデメリットが多い。よって、小中一貫校を経て、最終的には義務教育学校をめざすということになる。

次は、統廃合を行う際に考慮すべき事項、そして喫緊の課題として、志染・星陽・吉川中校区のあり方について事務局から説明をお願いします。

(鍋島学校教育課副課長)

資料に基づき事務局説明

- ・資料3 統廃合をする際に考慮すべき事項
- ・資料4 喫緊課題対応 志染中の再編(案)
- ・資料5 喫緊課題対応 星陽中の再編(案)
- ・資料6 喫緊課題対応 吉川4小学校の再編(案)

(仲田市長)

志染中学校の再編について、事務局の案としては、緑が丘中と自由が丘中の2つの案があるが、学校への距離など色々な意見があるかと思う。ご意見等があれば伺いたい。

(浦崎委員)

志染地域の事情と距離的なものがよく分からないので、説明してほしい。

(鍋島学校教育課副課長)

学校の位置については、資料に記載のとおりである。実際に生徒がどの辺りに多く住んでいるかということについては、高男寺や窟屋辺りの地域に十数人という規模の塊がある。

(仲田市長)

高男寺、窟屋は、緑が丘中、自由が丘中のどちらに近いのか。

(鍋島学校教育課副課長)

緑が丘中の方が近い。

(仲田市長)

その地域に1つの塊がある。

(鍋島学校教育課副課長)

また、もうひとつの塊は吉田地区にある。この地域は自由が丘中に近い場所であり、こちらも十数人の塊がある。それ以外については広く分布している。

(石井議員)

緑が丘中の方が近いとは思いますが、通学路が広域になるため、安全面も考慮すべきであり、単に距離が近いという理由だけでは判断できない。

(仲田市長)

通学路に関しては地元の方が詳しいので、きちんと議論を行い、ある程度理解がいただけることを前提で話してもいいかもしれない。

(西本教育長)

志染地区を地図で見ると、東西南北に非常に広いことが分かる。志染地区を自由が丘中と緑が丘中に2つに分けるということも考えられるが、地区のコミュニティを考えると分けられない方がいいのではないかと思う。その上で、東側の広がりを見ると、全体的にはより近い緑が丘中の方が望ましいのではないかと思う。

(井口委員)

仮に志染中を緑が丘中へ統合するということになると、やはり歴史も違うし、地域のコミュニティに関する意識の問題も多くあると思うので、地域の方々と

しっかり相談しながら進めていくべきである。

(仲田市長)

通学路の安全面の確保と、地域部会で、地域の方々の意見をしっかりと聞いていただきたい。

この総合教育会議では、志染中は緑が丘中と統合することが望ましいという結論でよいか。

次に、星陽中の再編について説明があった。星陽中が吉川中と統合した場合は、全ての学年が2学級になる。星陽中が三木中と統合した場合、吉川中の2年生、3年生が1学級になってしまうということである。また、口吉川と豊地を分割して統合した場合、豊地が三木中に統合すれば4学級になる一方、口吉川だけを吉川中に統合した場合、3年生は1学級になる。

(石井委員)

学校再編の1学年2学級を確保するという、当初の目的は外せないと思う。何度も統廃合を繰り返すということは、一番避けたいことであるので、先を見越して、星陽中と吉川中との統合を支持する。

先のことを見据えると、例えば、人数を確保するため、一番早い段階で義務教育学校に移行する可能性も考えられる。まずはクラス替えがきちんとできる2学級を確保した状態で統合することが望ましい。

(仲田市長)

確かに、最初の段階で各学年2学級以上を確保するという前提であったので、そういう意味では、星陽中は吉川中との統合が望ましい。

早期に義務教育学校へ移行という点について、事務局の意見はあるか。

(生田学校教育課長)

星陽中を吉川中と統合しても、依然として小規模であるため、子どもたちのことを考えると、横ではなく縦の連携を進める必要がある。そういう意味では、小中一貫校又は義務教育学校ということも十分考えなければならない。

(西本教育長)

早い段階で義務教育学校へ移行するという点については、例えば、吉川中校区と星陽中校区の中間点で新しい学校を建てるということも考えられる。そうならば、地域の意見も、考え方も変わってくる可能性があるため、時間をかけて議論を行わなければならない。

(仲田市長)

仮に、今の吉川中の場所ではなく、口吉川に学校を置くということになれば、豊地小校区の方の意見も変わってくるであろう。そういったことも踏まえて、しっかりと今後の議論を重ねていくべきである。

(大北委員)

はっきりとした小中一貫校、義務教育学校設立の見通しがあれば、遠い中学校まで通うことについて理解を得られるのかもしれないが、時期の見通しが立っていないうちから長距離を通学させることは、心苦しい。

(仲田市長)

確かに、保護者の立場では、いつできるという目途が立っていない状態にもかかわらず、細川の西村などから吉川中へ通わせるのかという議論は出てくると想定される。

有識者会議や地域部会で意見は聞くが、例えば、中間地点である口吉川辺りでの学校建設もあり得るとした方が、議論がしやすいと思う。

(浦崎委員)

コミュニティバスなどの交通網を充実させてほしい。

(仲田市長)

通学手段については、様々な方法が考えられる。場合によっては、地域部会からスクールバスの運行という意見も出てくるかもしれない。十分に議論をして、通学手段の問題、学校の場所についても、早期に説明できる案を作成することを補足させていただいた上で、これまでの我々の議論の前提である 1 学年 2 学級以上を確保するという考えから、星陽中については、吉川中に統合することが望ましいということによいか。

また、教育委員会と総合政策部には、それぞれの事務分担について連携をとること。

次に、吉川の 4 小学校の再編の議論に移る。

確認だが、吉川の 4 小学校を統合する場合、児童全員を受け入れる収容力があるのはみなぎ台小学校ということによいか。

(鍋島学校教育課副課長)

そのとおりである。

(仲田市長)

では、吉川の小学校 4 校については、みなぎ台小学校への統合ということでよいか。

ただし、吉川の 4 小学校を統合したとしても、1 学級になる学年がある。

口吉川小と豊地小も含めて統合すると、全ての学年で 2 クラスになる。

また、先ほどの中学校再編における議論と同じように、新たな小中一貫校を早期に建設する場合については、それに合わせて統合することも考えられる。

(石井委員)

小学生は基本的に徒歩通学となる。場所については、施設の収容力も考えてみなぎ台小しかないが、地域に提案する時には、人の目の垣根隊など、地域のボランティアのあり方についても念頭に置いて地域部会を進めてほしい。

(奥村教育振興部長)

見守り隊のあり方についても、継続して検討していく。また、実際に徒歩による通学が可能なのかどうかについても、地域部会において議論していただき、子どもたちの命、安全を第一に検討したい。

(大北委員)

第一に優先すべきは、1 学年 2 学級よりも、子どもの命であることは当然である。登下校については、バスを考えているのか。

(生田学校教育課長)

ここで結論を出すことはできないが、バスも含めて検討する。

(大北委員)

遠くに位置する上吉川小の児童などは、ほとんどが徒歩での通学は簡単といえない。例えば、公共交通機関のバス又はスクールバスなど、市に通学手段の確保案があるのかどうかで、保護者や地域の方々の考え方も変わってくる。これは非常に重要なことなので、もし地域部会で議題として出した時に質問されて答えられないようでは困る。

(西本教育長)

当然、子どもの安全第一で、色々な手法を考えていかないといけないと思う。地域部会でも安全確保の意見が出ると思うので、事務局としても準備しておか

なければいけない。

また、小中一貫校、義務教育学校の場所などを検討しておかないと、星陽中と吉川中が統合した場合、必然的に口吉川小と豊地小は統合後の学校へ通うことになるので、星陽中、吉川中校区については、ある程度学校の位置や通学路、通学方法を慎重に検討した上で、地域部会において説明していく。

(仲田市長)

1 学年 2 学級を保つことが前提であるが、一番大事なことは子どもの安全なので、市長部局と教育委員会の事務局でしっかりと内容を詰めて行くこと。

(浦崎委員)

最終的に小中一貫校、義務教育学校で 5 校区にまとめる場合、財政的な点でも市民は不安である。

(仲田市長)

財政面を無視するわけにはいかないが、子どもの教育を第一に考えていきたい。

今回の総合教育会議では、吉川中校区の小学校 4 校については、収容力のあるみなぎ台小に統合することが妥当であることで認識した。

豊地小、口吉川小の問題については、児童数や通学方法、また、将来の小中一貫校や義務教育学校の場所等も含めて方向性を検討していきたい。

(鍋島学校教育課副課長)

- ・今後の進め方について説明。